

(参考資料)

神戸市立工業高等専門学校及び両教育機関の連携における第3期中期目標期間終了（2か年）までの事業実施計画（中期計画項目別）

第4 神戸市立工業高等専門学校の教育研究等に関する目標を達成するための措置

中期計画	2023 年度計画
<p>4-1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育課程の充実</p> <p>産業界や社会の要請に対応するため、現在の教育カリキュラムや教育内容について、卒業生や企業等を対象にしたアンケート結果や外部有識者の意見を踏まえて検証し、本校の教育課程の特徴を明確化するとともに、それに応じた教育組織や学科編成などの改革方針について検討する。</p> <p>また、既存の教育内容だけでなく、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム※15 といった情報教育の充実を図り、データ思考力を有した技術者の育成を目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【新規事業の達成目標年度】</p> <p>■数理・データサイエンス・AI 教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リテラシーレベル」：2023 年度認定（2022 年度導入） （・「応用基礎レベル」：2025 年度導入） </div>	<p>○産業界や社会の要請に応じた教育組織や学科編成などの再編方針についての検討を進め、2024 年度中に方針を確定する。</p> <p>○数理・データサイエンス・AI 教育プログラム「リテラシーレベル」の認定を目指すとともに、情報教育の充実を図る。</p>
<p>(2) 効果的な教育手法の導入</p> <p>教育の専門性を高め、よりイノベティブな技術者を育成するため、企業等との共同教育を通じた学科横断型の PBL 教育の導入など、高専教育の充実に向けた効果的な教育手法について検討する。また、本校での教育がより効果的なものとなるよう、学生の学修状況に応じた習熟度別授業やアチーブメント試験の導入を検討する。</p>	<p>○企業等との連携による学科横断型の問題発見・課題解決型教育（PBL 教育）の導入の検討を進める。</p> <p>○習熟度別授業やアチーブメント試験の導入について検討を行う。</p>
<p>(3) 教育の実施体制の強化</p> <p>ア 学修環境の整備</p> <p>新たな教育カリキュラムや教育手法を効果的に実施するため、実験実習設備の計画的かつ早急な更新・充実に努める。また、学生の自発的な学修活動や学生同士のコミュニケーションが活性化されるよう、ワークスペースやコミュニケーションスペース等の環境整備を図る。</p> <p>イ 地域産業界とのさらなる連携強化</p> <p>実践的な技術者教育を推進するため、実務経験者による授業実施や PBL 教育など、地域産業界との共同教育を推進する。また、取り組みを活性化させるために必要な支援体制を検討する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【数値目標（成果指標）】</p> <p>■地域産業界との共同教育件数：2021 年度 2 件 → 新規 1 件以上</p> </div>	<p>○実践的教育の環境を充実し高度化するため、実験実習設備を計画的に充実更新する。</p> <p>○アントレプレナーシップ教育を推進するため、創作工房を新設する。</p> <p>○実務経験者による授業実施や PBL 教育など、地域産業界との共同教育を推進する。</p>

<p>ウ 教育DXの推進 学修環境の改善、利便性の向上及び教育内容の充実を図るため、ICT環境の整備を進めるとともに、BYOD型授業を導入するなど、教育DXを推進する。</p> <p>【新規事業の達成目標年度】 ■BYOD型授業の導入：一部導入2023年度、本格導入2024年度</p> <p>エ 教職員のさらなる資質向上 教員の教育力向上や職員の事務能力向上など、教職員のさらなる資質向上に向け、効果的なFD・SDを計画し、実施する。</p> <p>オ 継続的な改善（PDCAサイクル） 教育の質保証や社会の要請の変化に対応するため、教育研究の成果や教育内容、3つのポリシー等に関する自己点検・評価に基づく検証・改善を継続的に行うとともに、神戸市外国語大学との連携等による教育の質の向上を図る。</p>	<p>○BYOD型授業の導入に向けた環境整備を進める。</p> <p>○教職員の資質向上や能力開発に向け、効果的なFD・SDに取り組む。</p> <p>○自己点検・評価に基づく検証・改善を継続的に行う体制を整備する。</p>
<p>(4) 高度な専攻科教育</p> <p>ア 問題発見・課題解決型教育（PBL教育）の充実 創造性豊かな開発型技術者を育成するため、企業との共同教育を通じたPBL教育のさらなる充実を図る。また、神戸市外国語大学との連携を通じてグローバルな舞台で活躍できるように必要な能力の育成方法を検討するとともに、今後の専攻科教育に求められるカリキュラムの構築に努める。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■PBL教育で連携した企業数：2021年度1社 → 増加</p> <p>イ 専攻科指導体制の充実 専攻科での学生の研究活動を活性化させるため、複数指導体制の推進や一般科教員の参画など、専攻科教育における効果的な研究指導体制を検討する。また、教員や学生の高度な研究活動を促進するため、指導教員に対するインセンティブ制度を導入するなど、指導教員の質と量の確保に努める。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■専攻科指導教員比率（専門科の教授、准教授）：2021年度75% → 80%以上 【新規事業の達成目標年度】 ■指導教員のインセンティブ制度導入：2024年度</p>	<p>○企業との共同教育を通じたPBL教育のさらなる充実を図る。</p> <p>○大学と連携を行い、グローバルに活躍できる人材の育成方針について検討を行う。</p> <p>○複数指導体制の推進や一般科教員の参画など、専攻科教育における効果的な研究指導体制について検討を行う。</p> <p>○専攻科指導体制の充実に向けて、指導教員のインセンティブ制度を創設する。</p>

<p>(5) 優秀な学生の確保</p> <p>ア 入学者選抜方法の見直し 学校の目的やアドミッション・ポリシーに則した質の高い学生を確保するため、入学者の動向等を踏まえたPDCAサイクルを実施し、入学者選抜方法の見直しに取り組む。 また、神戸市が設置する高専として、入学者における神戸市内在住者の比率の向上を目指す。</p> <p>【新規事業の達成目標年度】 ■入学者選抜方法の見直し：2025年度本科入学生の入学者選抜（2024年度実施） 【数値目標（成果指標）】 ■本科入学者の神戸市内比率：2021年度50% → 60%以上</p>	<p>○入学者動向等を踏まえた入学者選抜の見直しについて検討を行う。 ○2024 年度入試において、インターネット出願を導入できるように準備を進める。</p>
<p>(6) 学生への支援</p> <p>ア 学修環境・活動環境の充実 教育DXを推進し、学修環境や研究活動環境の充実を目指すとともに、充実した学生生活を安心して過ごせるよう、経済的支援・課外活動支援など、学生の個々のニーズに対応しながら、学生生活全般に関する支援を行う。</p> <p>イ 相談体制の充実 様々な悩みを抱えた学生に対するきめ細やかな対応をするため、学生相談室と保健室の連携体制の強化に取り組み、カウンセリング体制の充実を図る。</p> <p>【新規事業の達成目標年度】 ■学生相談室と保健室の連携体制の強化：2023年度</p> <p>ウ キャリア支援体制の強化 学生自身が将来に対する目的意識を持ち、それらを実現していくため、学科や担任を通じたきめ細やかな支援を継続するとともに、インターンシップや企業説明会など、学生の進路選択に必要な情報提供や体験の機会を充実する。あわせて、キャリア支援の充実に必要なコーディネーターの配置を含む支援体制を検討する。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■企業説明会などのキャリア教育に関する取組：2021年度4件 → 5件以上 ■インターンシップ単位認定者数：2021年度224名（91.4%） → 92%以上 ■進学・就職率：概ね100%の進学・就職率を毎年維持。</p> <p>エ 持続可能な課外活動の運営体制の構築 学生による自主的・自律的な課外活動を支援するため、外部コーチ制度の充実など持続可能な運営体制について検討する。</p>	<p>○教育DXを推進する。 ○学生個々のニーズに対応した学生生活全般に関する支援について検討を行う。</p> <p>○きめ細やかな学生対応を行うため、学生相談室と保健室との効果的な連携体制を構築する。</p> <p>○学生の進路選択に必要な情報提供や体験の機会を充実させるとともに、学科や担任によるきめ細やかな支援を引き続き行う。 ○大学と連携し、キャリアサポートの充実にに向けた支援体制強化の検討を進める。</p> <p>○外部コーチ制度の充実など持続可能な運営体制について検討を行う。</p>

<p>(7)留学支援制度の充実と国際交流の促進</p> <p>ア 留学支援制度の充実 留学や海外インターンシップを希望する学生を効果的かつ包括的に支援するため、新型コロナウイルス感染症の影響で中断している海外派遣や留学プログラムの再開を目指す。 また、留学支援の充実に必要な支援体制を検討する。</p> <p>【新規事業の達成目標年度】 ■留学プログラムへの参加 オタゴ短期留学の再開：2023年度（2018年度は18名参加）</p> <p>イ 学生に対する国際的知識の涵養 学生の国際的知識の涵養や国際交流活動の経験を促進するため、イングリッシュ라운ジのさらなる充実とJENESYSプログラム等の受入など、海外教育機関との国際交流活動の活性化を図る。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■イングリッシュ라운ジ参加者：2021年度114名 → 200名以上 ■国際交流活動：2021年度0件（2019年度1件） → 年間2件以上 【新規事業の達成目標年度】 ■国際理解セミナーの実施：2023年度2回以上</p> <p>ウ 教職員に対する国際感覚の涵養 教職員の国際感覚を涵養するため、適宜、FDやSDを実施するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、海外との研究交流や海外研修制度の再開及び充実にに向けた検討を行う。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■FD、SD等の実施：2021年度0回（2019年度1回） → 年間1回以上 【新規事業の達成目標年度】 ■海外研修制度の改定：2023年度</p>	<p>○大学と連携し、留学支援の充実にに向けた支援体制構築の検討を進める。</p> <p>○イングリッシュ라운ジの充実及び国際理解セミナーの実施により、学生の国際的知識の涵養を促進する。</p> <p>○教職員の国際感覚を涵養するため、海外との研究交流や海外研修制度の充実にに向けた検討を進める。</p>
<p>第4-2 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1)研究活動の充実</p> <p>ア 地域産業界・神戸市との共同研究等の推進 地域産業界や神戸市の発展に資するため、地元企業等と連携した研究活動を展開するとともに、研究活動が神戸市の行政課題の解決にもつながるよう、神戸市の政策と一体性のある共同研究や技術協力等を推進する。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■神戸市との共同研究等：2020年度開始（2件） → 4件以上</p>	<p>○神戸市の政策と一体性のある共同研究や技術協力等を推進する。</p>

<p>イ 外部資金獲得の促進による研究レベルの向上 科学研究費助成事業をはじめとする外部資金獲得を促進するため、研究全般をマネジメントするなどの専門職員を活用した研究支援体制の構築を検討する。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■外部資金獲得額（間接経費を含む）：2021年度までの5年平均 7,437万円 → 2024年度までの5年平均 7,500万円以上 ■科学科研費への応募：教員全員 → 維持</p>	<p>○専門職員を活用した研究支援体制の構築に向けた検討を進める。</p>
<p>(2)研究活動の実施体制の強化 ア 研究支援体制の強化 研究活動の活性化と質の向上のため、研究活動や産学連携の拠点となる施設の整備や、専門職員を活用した研究支援体制の構築を検討する。</p> <p>イ 研究成果等の社会への発信 研究開発レベルのレピュテーションを向上させるため、研究成果等を論文や国際会議、学会等で広く社会に発信するよう努める。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■研究成果等の発表件数：2021年度359件 → 500件以上</p>	<p>○専門職員を活用した研究支援体制の構築に向けた検討を進める。【再掲第2-2-(1)イ】</p> <p>○研究成果等を論文や国際会議、学会等で広く社会に発信するよう努める。</p>
<p>(3) 国内外の研究機関との学術提携・学術交流 ア 国内外の大学・研究機関等との協定締結 研究活動の拠点づくり及び人的交流を促進するため、国内外の大学・研究機関との教育研究協定や産業界との協力協定の締結を計画的に進め、研究力のさらなる向上と学生への研究機会の充実を図る。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■国内の大学・研究機関との協定数：2021年度12件 → 維持 ■海外の大学・研究機関との協定数：2021年度5件 → 維持 ■産業界との協力協定数：2021年度6件 → 増加</p>	<p>○国内外の大学・研究機関との教育研究協定や産業界との協力協定の締結を計画的に進める。</p>
<p>第4-3 地域貢献・社会貢献に関する目標を達成するための措置 (1)産金学官連携活動の充実 ア 産金学官連携事業の推進 教育活動や研究成果を積極的に社会へ還元し、地域社会の発展に貢献するため、これまで実施してきた神戸市や地域産業界との産金学官連携事業が、変化する社会のニーズに適応した連携内容となるよう検討しながら、連</p>	<p>○社会のニーズに適応した連携内容や効果的な実施方法を検討するとともに、新たな連携事業の開拓に努める。</p>

<p>携事業の継続・充実に取り組む。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■連携事業数：2021年度5事業 → 維持</p> <p>イ 技術相談の推進 地域産業界の技術開発・技術支援にさらに貢献するため、必要な相談体制を検討するとともに、企業が本校の強みや特色を把握しやすいよう、教員の研究成果や地域産業界との連携実績などを積極的に情報発信し、技術相談件数の増加を図る。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■技術相談件数：2021年度59件 → 80件以上</p>	<p>○地域産業界の技術開発・技術支援に貢献できるよう、相談体制の充実にに向けた検討を進める。 ○積極的な情報発信により、技術相談件数の増加を図る。</p>
<p>(2) 市民への学習支援</p> <p>ア 技術講習会や公開講座等の推進 市民に対する学びの場を提供するため、夏季公開講座の開講やユニティの公開講座への参画、小中ロボコンの開催など多様な公開講座等を計画し、その開催に取り組む。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■公開講座等の開催数：2021年度13件 → 15件以上</p> <p>イ 小中学校・高等学校との連携活動の推進 将来の技術者の確保と育成に寄与するため、小中学校での出前授業や理科教員の指導力向上を目的とした理科コンストラクションの実施、科学技術高校の指定校推薦制度や市立工業高校の人材育成事業への協力等の連携活動に取り組む。</p> <p>【数値目標（成果指標）】 ■出前授業回数：2021年度3回（2019年度20回） → 20回以上 ■指導力向上研修回数：2021年度2回 → 維持</p>	<p>○市民に対する学びの場として、多様な公開講座等を開催する。</p> <p>○小中学校での出前授業や指導力向上研修の実施により、将来の技術者の確保と育成に寄与する。</p>
<p>(3)地域貢献活動の実施体制の強化</p> <p>ア 地域貢献活動のための環境整備 地域貢献活動をより一層推進するため、地域貢献活動の充実に必要な実施体制や新たなワークスペース・講義室等の整備を検討する。</p> <p>イ 各種活動実績の発信体制の充実・強化 様々な情報を効果的に発信するため、各種活動実績の広報発信も含めた情報発信体制の充実・強化を目指す。</p>	<p>○地域貢献活動を推進するために必要な体制整備とその充実にに向けた検討を進める。</p> <p>○効果的な広報活動ができる体制の構築に向けた検討を進めるとともに、CMSの導入により効果的かつ効率的な情報発信を可能とする環境を整備する。</p>

第4-4 魅力や情報の発信に関する目標を達成するための措置

(1)神戸市のブランド向上への貢献

ア 魅力の積極的発信

高い進学率や就職率、研究成果などの魅力を積極的に発信するため、情報を集約し、効果的な広報活動ができる体制の構築を目指すとともに、ウェブサイトのリニューアルや学校案内パンフレット等の刷新により、その情報発信に取り組む。

イ 広報活動の充実・強化

効果的な広報活動を展開するため、入試広報、キャリア広報、学内広報、一般広報を一元管理・運営できる教職協働の広報体制の構築を目指す。

また、神戸市ならびに法人のブランド向上に向け、総合的・効果的な発信ができるよう、法人内の情報発信・情報管理部署や神戸市外国語大学の広報担当部署と連携を図りながら効果的な広報活動を目指す。

【新規事業の達成目標年度】

■広報体制の構築：2023年度

(2)戦略的かつ効果的な魅力発信

ア 入試広報の強化

受験生やその保護者を中心に、本校の特色や教育内容等を的確に情報提供できるよう、効果的な新たな広報手段を検討するとともに、直接体験してもらうため、オープンキャンパス参加者の増加に取り組む。

【数値目標（成果指標）】

■参加者数：2021年度中学生507名 → 中学生550名以上（内、女子生徒20%）

イ 市民への魅力発信の強化

市民への情報発信を通じて、本校の魅力を認識してもらうため、ウェブサイト充実させるとともに、新聞記事や市内の広報誌・フリーペーパー等への掲載を積極的に行う。

【数値目標（成果指標）】

■PR記事掲載の広報誌等の数：2021年度0誌→2誌以上

ウ 在校生・卒業生等に関する広報の強化

卒業後も本校との繋がりを意識出来るように、在校生や教員の活動状況について、ウェブサイト等で積極的に情報発信を行うとともに、同窓会組織である「六神会」と連携し、OB・OGの活躍を紹介する取り組みの充実を図る。

○効果的な広報活動ができる体制の構築に向けた検討を進めるとともに、CMSの導入により効果的かつ効率的な情報発信を可能とする環境を整備する。【再掲:第2-3-(3)イ】

○ウェブサイトのリニューアルや学校案内等の刷新についての検討を進める。

○法人及び大学と連携を図り、効果的な広報活動を行う。

○高専の特色や教育内容等について、効果的に情報発信する方法を検討するとともに、オープンキャンパス参加者の増加に向けた取組を行う。

○ウェブサイトの充実、広報誌等への掲載など、積極的な情報発信に努める。

○在学生・卒業生を紹介する取組により、卒業生との連携を深める。

第5 大学と高等専門学校の連携に関する目標を達成するために取るべき措置

中期計画	2023 年度計画
<p>(1) 適正な学生交流機会の創出</p> <p>両教育機関がそれぞれで取り組んでいる学習事業やイベントについて、希望する双方の学生が参加できる仕組みを整備するとともに、学園祭や部活動等の学生生活における協働を促すことで両教育機関の活発な学生間交流を実現し、学生の多様性獲得に資する機会を創出する。</p> <p>また、交流機会の創出にあたっては、学生提案等により集めた学生の声を積極的に生かし、学生ニーズに沿った交流・協働の仕組みを構築する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【新規事業の達成目標年度】</p> <p>■双方の学生が参加・協働する事業の設定（2024 年度末までに実施）：6 件</p> </div>	<p>○学生に対して、アンケートや提案制度を通じて、学生の自治会・団体等を中心に学生の声を聞くことで、学生の交流・協働に関するニーズの確認を行う。</p> <p>○確認した学生ニーズを踏まえ、双方の学生が参加・協働する事業を実施する。</p>
<p>(2) 双方の強みを生かした教育・学習機会の充実</p> <p>双方の学生の希望に応じて、学生により幅広い学習機会を提供できるよう、両教育機関が持つ文系・理系の強みを相互に生かして、情報教育や国際理解・コミュニケーション能力向上のノウハウを相互に提供・活用できる仕組みを構築するとともに、各取組を推進する組織体制の充実と受験生・在学生への情報発信の強化に取り組む。</p> <p>また、情報分野の知識と国際的なコミュニケーション能力の双方が必要とされるプログラムや PBL などを通じて、学生が文系・理系双方の知識や発想力を横断的に学習できる機会の創出に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【新規事業の達成目標年度】</p> <p>■情報教育、国際理解・コミュニケーション能力向上の分野における取組（2024 年度末までに実施）：4 件</p> </div>	<p>○情報教育に関する外大生・高専生の興味・関心を把握して、双方の学生が参加できる記念講演会を実施する。</p> <p>○外大が数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の認定取得を目指すにあたり、必要に応じて高専の持つ情報教育に関するノウハウを外大に共有する。</p> <p>○高専のオタゴ短期留学生に対して、外大の留学経験者が留学に関するアドバイスをできる場を設ける。</p> <p>○中国語を話せる外大生の協力を得て、高専が実施する中国語の授業の充実を図る。</p>
<p>(3) 学生生活・教育環境の向上</p> <p>両教育機関の施設・設備を相互利用することで、学生生活・教育環境の向上を図るとともに、施設の一体的な整備運用や保有資産の有効活用に加え、両教育機関の各種管理・調達における契約を一つにするなど、効率的な運営体制を構築する。</p> <p>また、両教育機関が保有するキャリアサポートに関する情報を共有するなど、学生生活への支援を強化する。</p>	<p>○施設・設備の効率的な運用体制を検討するために、大学・高専でワーキング・グループを立ち上げて検討する。</p> <p>○高専の学生のキャリア支援に外大のノウハウを活用する。</p>
<p>(4) 教職員の交流促進</p> <p>大学・高専共同の教職員研修の実施や、研修プログラムに相互に参加できる仕組みを構築するとともに、大学・高専間での事務職員の人事交流を行う。</p> <p>人事交流にあたっては、概ね採用 10 年以内に大学と高専の両方を経験させることで、文理横断型の学校経営に必要な知識習得も含めた職員の資質向上を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【新規事業の達成目標年度】</p> <p>■教職員の共同研修を実施：（2024 年度末までに実施）：3 件</p> </div>	<p>○教職員が相互に参加できる研修プログラムを構築する。</p> <p>○固有職員を新たに高等専門学校事務室に配置する。</p>